

平成30年度(2018年度)

管理事業名	スポーツ振興事業				総合計画の体系	第4章 個性ひかる学びと文化創造のまちづくり 第3節 スポーツに親しめるまちづくり
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 33 スポーツ推進費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室			
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
スポーツ推進事業 一般事務事業 スポーツ施設情報システム管理事業 ホームタウン推進事業						
事業の目的と概要	<p>「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の環境づくりを目指します。</p> <p>【地域スポーツ振興】地域スポーツ促進・サポート事業、各地区市民体育祭補助事業、学校体育施設開放事業、中学校運動場ナイター施設開放事業、千里山武道教室</p> <p>【スポーツイベント・プログラムの充実】運動習慣化推進事業、ココカラsuitableキッズ事業、スポーツ大会・教室等実施事業</p> <p>【健康づくりの充実と高齢者・障がい者スポーツの振興】市民スポーツ講座、健康づくり推進事業、障がい者スポーツ振興事業</p> <p>【スポーツ指導者の養成・研修事業、団体育成】地域スポーツ指導者養成・研修事業、競技スポーツ指導者養成・研修事業、社会体育関係団体育成事業</p> <p>【ガンバ大阪ホームタウンの推進】パブリックビューイング、市民ふれあい事業、J1リーグ市民招待事業、ガンバ大阪コーチ派遣事業、ガンバ大阪のあるまち補助事業</p>					

I 事業の成果(実績)					
指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
スポーツ推進事業参加者等の総数	人	644,882	604,956	619,849	市長杯大会、各地区スポーツ行事、市民体育祭、健康づくりフェスティバル、学校体育施設開放事業、指導者養成・研修事業、運動習慣化推進事業、ココカラsuitableキッズ事業、ホームタウン推進事業などの参加者数
スポーツ施設情報システム登録者数	人	11,364	11,500	11,570	登録者数(団体登録・個人登録)
成果の説明	<p>学校体育施設開放事業は、前年度比で約19,000人増加しており、スポーツ推進事業参加者総数の約75%を占めています。市民の健康づくりへの貢献度が高い事業となっています。</p> <p>スポーツ推進事業参加者数は、平成29年度に事業内容を精査したことにより減少しましたが、平成30年度は、学校体育施設開放事業のほか、各地区市民体育祭やホームタウン推進事業のJ1リーグ市民招待事業、ガンバ大阪コーチ派遣事業等により増加しました。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	3,559	3,536	3,298	△238
国庫支出金(経常費用充当)	345	341	-	△341
府支出金(経常費用充当)	173	170	-	△170
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	1,278	7,786	959	△6,826
経常収入 小計(a)	5,355	11,832	4,257	△7,575
給与関係費	137,748	100,272	87,291	△12,981
物件費	69,865	70,993	121,452	50,459
維持補修費	1,651	16,894	571	△16,323
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	32,150	31,419	33,405	1,986
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	3,884	4,551	3,496	△1,055
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	8,342	7,707	6,727	△980
退職手当引当金繰入額	△18,912	△25,806	△1,043	24,764
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	234,727	206,030	251,900	45,870
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△229,372	△194,198	△247,643	△53,445
特別収入	-	-	-	-
特別支出	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△229,372	△194,198	△247,643	△53,445
一般財源充当額	261,959	228,413	199,755	△28,658
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	32,587	34,215	△47,888	△82,103

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	職員数の減少により、給与関係費が減少しました。 ※月平均従事人数 平成29年度11.85人→平成30年度10.8人
物件費	ホームタウン推進事業の実施により、委託料、役務費、使用料及び賃借料等が増加しました。 委託料 43,010千円 役務費 5,797千円 使用料及び賃借料 5,892千円
負担金・補助金・交付金等	市民体育祭補助金 13,127千円 健康づくり推進事業補助金 13,790千円 ホームタウン推進事業補助金 2,169千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
行政サービス活動収入	5,355	11,832	4,257	△7,575
行政サービス活動支出	263,655	235,903	257,958	22,056
行政サービス活動収支差額	△258,300	△224,071	△253,702	△29,631
投資活動収入	-	-	57,251	57,251
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	57,251	57,251
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	3,659	4,342	3,304	△1,038
財務活動収支差額	△3,659	△4,342	△3,304	1,038
収支差額 合計	△261,959	△228,413	△199,755	28,658
一般財源充当額	261,959	228,413	199,755	△28,658
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
スポーツ振興事業1人あたりのコスト	平成28年度	656,246 人	358 円	1人あたりのコストについては、スタジアムのネーミングライツで得た対価を積み立てたスポーツ推進基金からの充当額57,251千円を除いた一般財源充当額とスポーツ振興事業参加者等の総数から算出しており、18円減少しています。
	平成29年度	616,456 人	334 円	
	平成30年度	631,419 人	316 円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	11,011	10,031	△980
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	7,707	6,727	△980
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	3,304	3,304	-
有形固定資産	15,729	12,233	△3,496	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	91,578	79,699	△11,879
建物・工作物	1,211	1,019	△192	地方債	-	-	-
リース資産	14,518	11,214	△3,304	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	80,364	71,790	△8,574
無形固定資産	-	-	-	リース債務	11,214	7,910	△3,304
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	102,589	89,730	△12,859
建物・工作物	-	-	-	純資産	△86,860	△77,497	9,363
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-	純資産の部合計	△86,860	△77,497	9,363
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	15,729	12,233	△3,496
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	15,729	12,233	△3,496				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

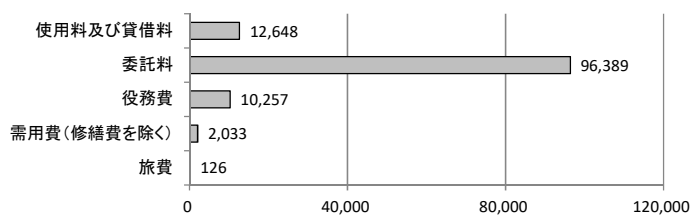
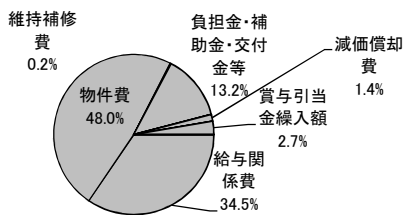
	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	10.8人		218日	75人	92,975
給与関係費等	86,370千円		1,931千円	4,675千円	
内、時間外勤務手当	2,615千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	中学校運動場ナイター施設開放事業 ナイター照明設備の減価償却により、192千円の減
リース資産	スポーツ施設情報システム管理事業 街頭・業務端末機の減価償却により、3,304千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	第五中学校(ナイター施設)ほか6校
取得年月日	昭和58年5月1日
建物・工作物の取得価額	31,610千円
建物・工作物の減価償却累計額	30,591千円
利用料金収入	3,298千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	5.2	53.4	1.8	△ 51.6
施設老朽化比率	95.5	96.2	96.8	0.6
受益者負担比率	1.5	1.7	1.3	△ 0.4
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	98.0	95.1	76.5	△ 18.6
経常費用対公共資産比率	742.6	651.8	796.9	145.1

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

物件費の内、委託料は約79%を占めています。その割合は、市長杯大会・教室等実施事業、及び学校体育施設開放事業はともに約25%、ホームタウン推進事業は約45%を占めています。
ホームタウン推進事業については、市立吹田サッカースタジアムのネーミングライツで得た対価を積み立てたスポーツ推進基金から57,251千円を当該事業へ充当し、スタジアムでの「パブリックビューイング」、市内の小学生を対象とした「市民ふれあい事業」、J1リーグ市民招待事業、幼稚園・小学校へのガンバ大阪コーチ派遣事業の実施やガンバ大阪を応援する団体が実施する事業に対する補助金の交付により、多くの市民がスタジアムとガンバ大阪にふれあい、ホームタウン意識の醸成が図られました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

学校体育施設開放事業については、市民の健康寿命延伸に向け、さらに利用者が増加するよう環境整備を行う必要があります。また、千里丘北小学校の学校体育施設開放事業や市民体育祭が未実施となっており、当該地域等と早期の実施に向け、今後も協議を進めていきます。
ホームタウン推進事業については、さらにホームタウン意識の醸成を図るため、市だけでなく市内のガンバ大阪を応援する団体などとの連携・協力を強化し、オール吹田での取組を進めるとともに、事業の拠点をスタジアムだけではなく市内全域へと広げる必要があります。